

《ハープとヴァイオリンのためのアンダンテと主題、変奏付(へ長調)》¹

水谷 彰良

ハープとヴァイオリンのためのアンダンテと主題、変奏付(へ長調) *Andante e Tema con Variazioni per Arpa e Violino*

作曲 不明 (おそらくナポリ、1819-22年。解説参照)

初演 不明

編成 ヴァイオリン、ハープ

演奏時間 約4分半

自筆楽譜 不明

初版楽譜 Napoli, Girard, 1822c.

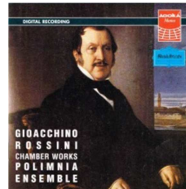
現行譜 Quaderni Rossiniani VI 及び下記批判校訂版

全集版 未成立。批判校訂版は WGR : Chamber Music without Piano., 2007. (BA 10511)

構成 へ長調、3/4拍子、アダージョ～2/4拍子、アンダンテ

解説

初版が1822年にナポリのジラル社から出版された作品で、タイトル頁に「ハープとヴァイオリンのためのアンダンテと主題、変奏付。ジョアッキーノ・ロッシェーニによりカルロッタ・バルバーイア夫人に特別に作曲献呈、ナポリ (Andante e Tema / Con Variazioni / per Arpa e Violino / Composte espressamente e dedicate / alla Signora Carlotta Barbaja / da Gioacchino Rossini / Napoli)」とある。カルロッタ・バルバーイアは興行師ドメニコ・バルバーイアの娘で、その結婚が1819年であることから、作曲時期が1819年夏からロッシェーニがナポリを去る1822年3月の間と推測しうる。曲は16小節の序奏(へ長調、3/4拍子、アダージョ)、主題と変奏(へ長調、2/4拍子、アンダンテ)からなり、《タンクレーディ》(1813年)第1幕タンクレーディのカヴァティエーナのカバレッタ〈ディ・タンティ・パルピティ (Di tanti palpiti)〉の主題と変奏が主部をなし、ヴァイオリンの提示する主題をハープとヴァイオリンが対話しながら3回変奏する。



推薦ディスク : Polimnia Ensemble (Agora AG 201.1)

¹ 初出は『ロッシェーニアーナ』第33号所収「ロッシェーニ全作品事典(25) ロッシェーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。